



第7868号

2023年8月9日(水)

終戦前後の大地震

防災システム研究所長 山村 武彦

◆6年間に5回

関東大震災からの100年間で、犠牲者1000人以上の大地震が10回発生しているが、その半数は終戦前後の6年間に起きている。

終戦の2年前、1943年9月10日午後5時36分、鳥取地震が発生。震源のごく浅い直下型地震で、鳥取市などを推定震度7の猛烈な揺れが襲い、全半壊家屋1万3643棟、死者1083人という甚大な被害を出す。しかし、戦時報道管制のため、翌日の新聞に掲載された被害写真は1枚だけで、詳細が伏せられたため、全国的な救援活動には至らなかった。

鳥取地震を皮切りに、翌44年昭和東南海地震、45年三河地震、46年昭和南海地震、48年福井地震と、終戦前後の6年間に5回も大地震が発生。すべてが死者・行方不明者1000人以上の大震災であった。

◆柱を切り、避難口は1カ所

終戦の9カ月前の1944年12月7日午後1時36分に発生した昭和東南海地震では、死者・行方不明者が1183人に上った。中でも多くの犠牲者を出したのが愛知県の中島飛行機半田製作所山方工場などの軍需工場だった。

半田市の死者188人のうち、153人(81%)が中島飛行機で働いていた人たち。そのうち96人が動員学徒(労働力を補うために動員された中学生以上の生徒・学生)、37人が従業員、17人が徴用工(国民徴用令によって動員された人)、3人が挺身(ていしん)隊員(自ら望んで軍需工場などで働いた女学生など)だった。

多数の死者が出たのは、紡績工場を軍用機工場に改築する際、耐震性を考慮せず柱を切り取ったことと、機密保持を理由に出入り口を1カ所にしたことが要因といわれる。激しい揺れに驚き、出入り口に殺到し、団子状態となった人たちの上に建物が崩れ落ち、多数が生き埋めになったという。犠牲者の半数以上が戦争さえなければ死ななかつたらう中学生や高校生たちだった。

◆平和の尊さ

これほどの災害にもかかわらず、国は国民の戦意喪失と敵に弱みを見せることを恐れ、内務省警保局検閲課通達で具体的被害や写真の報道を禁じ、震災を徹底的に隠蔽(いんぺい)した。翌日の新聞1面は、「決戦第四年 一億特攻・米英必殺」などの見出しで、各紙とも、昭和天皇の軍服写真を大きく掲載した大詔奉戴日(開戦記念日)特集だった。地震については、「昨日の地震、震源地は遠州灘」などと写真もなく3面で小さく扱い、人的被害などは報道されていない。

一方、米国のニューヨークタイムスは1面で、「真珠湾攻撃から3周年の昨日、日本で大地震が発生。地球全体が6時間近く震動。観測者が『壊滅的』と表現した猛烈な地震」などと報じた。地震から6日目には、米軍はB29爆撃機90機で名古屋市の中島飛行機に本格的な空爆を開始。すでに制空権は奪われ、激しい空爆は全国に及んでいく。

終戦の7カ月前、昭和東南海地震から37日後、中部地方をさらなる災禍(三河地震)が襲う。死者1961人という大震災だったが、これも国民には知らされなかった。

終戦の日は、戦災死没者と隠された震災犠牲者の追悼とともに、戦争の惨禍と理不尽さを顧みて、平和の尊さを静かに語り継ぐ日である。

(やまむら・たけひこ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003